

釜ヶ崎解放

95
3.2

〒557 大阪市西成区萩之茶屋2丁目5-2
釜ヶ崎解放会館内
釜ヶ崎日雇労働組合
電話 06-632-4273

仲間、現場情報も集会へ!

“作戦会議”-討論集会(明日3月6日)

(明日3月6日)
(西成市民館)

釜ヶ崎の仲間達、明日3月3日(日)の前半より、西成市民館で95年春期斗争の第一回討論集会を開きます。討論集会は、春期斗争を勝利的に勝ち抜いていく為の作戦会議だ。今後、毎週一回は必ず、この作戦会議の討論集会を開いていきます。第一回目の討論集会では、震災復旧工事現場の状況を中心に、震災前後の飯場内の様子の変化、賃金問題、ボッタクリ飯場や半ダコ飯場の摘発など、具体的な事例や情報を、へっぴりなで集会に持ち寄り、へっぴりなで労働者達の意向を皆んなでつくり、こうした事を最大の目的にしています。この状況下での集中討論を踏まえて、来週水曜(8日)の第二回集会で、95年春期の要求事項を皆んなで確定して、今月中旬より、斗争に突入していく決意だ。仲間達、自分たちが生きてきた現場や飯場の情報を、3日の集会に皆んなで持ち寄り、復旧工事での現場道い直し、労災モミ消し、単価割れでのマニ配、飯代のボッタクリと餌い殺し、暴力事件や賃金不払

の状況、この「3日」の討論集会で、皆んなで作り返さなければならぬ。釜ヶ崎は、15年前の80年(昭和55年)より、最低賃金制度の確定を中心に、毎年、春期斗争を闘ってきた。80年当初、6,500円の最低単価を、92年1,300円の円にまで押しあげてきた。しかし、パマル崩壊後の長期不況下、最低単価は92年以來、3年向も長期停滞を強いられしてきた。何故か?! 長期不況下、歪な組を典型に、飯場への仲間の思い込みと餌い殺しが本流となってきたからだ。しかも、この飯場制度は、80年代の「新空者」ムラの中で、巨大飯場の「派閥」へと再編、蓄積されてきた。震災特需への日雇労働総動員が全国規模で進む中、飯場制度の新たな再編も不可避だ。この飯場制度に手をかけない限り、春期斗争の一步の前進も勝ち取れない。こうした時代が始まっている。更に3日の前進を勝ち取るぞ!

“震災特需”への日雇労働総動員と闘おう!